

学界消息

史学研究会関係

例会 十二月三日(土) 午後一時 楽友会館

中国戦国時代の墓制

金関 恕

銀差成立の過程について

岩見 宏

ミノア文字の解読をめぐって

村田敬之苑

例会 二月四日(土) 午後一時 楽友会館

劉備の入蜀

狩野 直禎

ナチスと自由主義の問題

広実源太郎

万葉に於ける古代と近代

林屋辰三郎

国史関係

大谷大学仏教史学会大会 十二月三日(土)

午後一時 大谷大学会議室

比叡山と本願寺

藤島 達郎

六朝仏教における自己の問題

村上 嘉実

西田直二郎先生古稀祝賀会

この度古稀を迎えられた京都大学名誉教授

西田博士の古稀祝賀会は、博士の誕生され

た旧臘十二月二十三日(金) 午後五時より

関係者・門下生約百名参集し、盛大に開催

された。和やかな懐旧談のうちに博士の長

寿を祈った。

読史会新卒業生予餞会 二月十三日(土)

午後四時

梨木神社

本年度新卒業生十五名の予餞会は、梨木神

社客殿において、小葉田・赤松・柴田各教

授、岸助教、林屋講師等教官・先輩・学

生五十数名相集つて、学生生活の回顧、前

途の抱負などを語りつつ、盛會裡に行われ

た。

東洋史関係

人文科学研究所開所記念講演会 十一月十二

日(土)

人文科学研究所

ト辭に見える祖靈觀念について

伊藤 道治

人文科学研究所交換研究会 十一月十七日

(木) 十八日(金) 午後一時

人文科学研究所

南宋の郷村制

周藤 吉之

南宋の農業問題

周藤 吉之

中国科学院訪日学術視察団講演 十二月十日

(土)

人文科学研究所

剪伯贊氏の「時代区分の問題」及び尹達氏

の「六年来の中国に於ける考古事業」の報

告をめぐつて討論した。

京都大学新卒業生予餞会 三月一日(木)

午後五時より京都大学南食堂に於いて開催。

田村教授をはじめ、教官・先輩・学生等約

三十名が参会し、卒業生の前途の多幸なら

んことを祈った。

東方学術協会例会 三月二十二日(木)

午後二時

人文科学研究所

イランへの旅

岡崎 敬

西洋史関係

京都大学新卒業生予餞会 二月二十八日

(火)

楽友会館

原教授をはじめ各教官出席のもとに盛大に

行われた。就職希望者と大学院希望者は略

々相半ばしたが、卒業論文題目にも見ら

れるように、傾向としては今年度は異色あ

る卒業生を送つた。

地理学関係

人文地理学会大会 十一月一日(火)

京都大学教養学部新徳館・尚賢館

伊豆天城周辺林業地域に於ける部落

共有林の変容形態に関する一研究

福井県上打波における出作りについて

細井 淳一

都市域の土地利用とその農業経営

大西 青二

近代工業と農業兼業(予報)

藤本 利治

地方二都市の商圏競合

木地 節郎

高冷開拓地の農業経営について

兼業農家に関する研究(その3)―

河地 貫一

川喜田二郎

果樹栽培における経済単位地域について

安藤万寿男

復雑な新田開発の事例

統計からみたわが国の農作物の限界

浅井 得一

三角州に於ける新田の開発

岩木火山斜面の土地利用

村木 定雄

近世における多摩川溪谷の龍寿寺村

鉾山をもつ山村の鉾山との関連過程

川崎 茂

近世における松村 安一

鉾害農村の地理学的研究(第一報)

土井 仙吉

西部瀬戸内海北岸における古代地形の

1 筑豊炭田地帯の鉾害現象

御子柴幸一

発達と文化景観の展開(1) 小野 忠熈

2 鉾害地の農業構造

千拓地の行政境界

方言の類似度および通婚率よりみた中

灌漑用水源としての筑紫平野の溜堀に

竹内 常行

国山地の境界性について

ついで

松島 一夫

岩永 実

養殖漁村の社会構造について

大島 襄二

宋代「談馬顔等国」の位置に関して

水産養殖業の競合する地域

新宅 勇

木村 宏

長門北浦漁村の生産構造

大村 肇

ヘンリー航海王と印度

筑前大島の半農半漁形態

中田 栄一

地域調査の発展

外房沿岸の地域調査報告

山口弥一郎

「秋落」について

共同漁村の型態

限部 守

日本地理学会秋季大会 十一月二日(水)

五島列島の居住様式について

千田 正美

三日(木) 京都大学教養学部新徳館

都市近郊の農村構造

池浦 正春

シンプジウム《開拓》(二日)

地方二都市の商圏競合

木地 節郎

シンプジウム《都市の郊外》(三日)

高冷開拓地の農業経営について

市川 健夫

大阪近郊の農業

川裾野原野の開拓と日本の基底文化

川喜田二郎

大阪府下、蔵垣内部落農村都市化の

戦後における農地開拓の展開とその批判

本間 武

一断面

本間 武

東京都市下、小平町の変貌

渡辺 操

郊外地域の拡大

高野 史男

市域拡張に関する近郊の利害

井関弘太郎

人文地理学会第十三回例会 十二月十日

(土) 京都大学付属図書館

未開社会における村落共同体について

石川 栄吉

ギリシア時代の地中海植民

織田 武雄

人文地理学会十第四回例会 二月二十五日

(土) 京都大学付属図書館

滋賀県における農民的商品生産の

歴史地理的考察

矢守 一彦

トルキスタン紀行(スライド併写)

池浦 正春

高冷開拓地の農業経営について

山下 孝介
三浦梅園の思想
昭和初年の労働運動
「部民」についての一試論

考古学関係

但馬八代須惠器窯址の調査
兵庫県城崎郡日高町八代の丘陵中腹で発見された須惠器窯址の調査が、旧臘五日から十日間にわたつて行われ、京大考古学研究室横山浩一氏が主としてこれを担当した。

その結果、この窯は、半地下式の登窯の構造をもち、出土品から古墳時代後期に築造使用されたものであることが判明した。

考古学談話会（卒業生予餞会）二月四日
（土）
楽友会館

田中 琢
飛鳥時代の唐草文様
中東探険旅行談
昭和三十一年京都大学卒業論文題目
国史学専攻

田中 琢
飛鳥時代の唐草文様
中東探険旅行談
昭和三十一年京都大学卒業論文題目
国史学専攻

田中 琢
飛鳥時代の唐草文様
中東探険旅行談
昭和三十一年京都大学卒業論文題目
国史学専攻

田中 琢
飛鳥時代の唐草文様
中東探険旅行談
昭和三十一年京都大学卒業論文題目
国史学専攻

田中 琢
飛鳥時代の唐草文様
中東探険旅行談
昭和三十一年京都大学卒業論文題目
国史学専攻

田中 琢
飛鳥時代の唐草文様
中東探険旅行談
昭和三十一年京都大学卒業論文題目
国史学専攻

田中 琢
飛鳥時代の唐草文様
中東探険旅行談
昭和三十一年京都大学卒業論文題目
国史学専攻

田中 琢
飛鳥時代の唐草文様
中東探険旅行談
昭和三十一年京都大学卒業論文題目
国史学専攻

上田 淑子
大谷 郁三
狩野 久
木内 由雄
工藤 敬一

近世中末期漁村の構造
辺境における封建制の成立過程
第一次大戦及び对中国二十一ヶ条要求の史的諸前提

加能地方に於ける組・十六に関する考察
近世初期における村落構造の展開
一九三一—三二年の日本における議會政治をめぐる二三の事実について
五山派禅宗の発展に関する社会的考察

藤岡 大拙
八木 三男
唯 貞三
横山 達雄

農兵隊の成立と解体
日本自然主義と島崎藤村
律令制下の地方豪族の一動向
〔修士過程〕

江戸後期における村落の展開
高野山領荒河荘の研究
近江における大閤検地の問題

朝尾 直弘
熱田 公
今井美智子

東洋史学専攻
東周列国の史官の記述の一側面

宇高 克宏

宇高 克宏

宇高 克宏

宇高 克宏

Rig Veda Samhitā にあらわれたる「vic」及び「vic-pati」について
李大剣の思想
中国浄土教成立に関する一考察
陳天華について
〔修士過程〕
金代女真と貨幣經濟
福建の開発と仏教
西洋史学専攻
マキアヴェルリの悲劇性について
十七世紀英国革命期における急進民主主義像
ミケランジェロ晩年への歴史的展望
モンテスキューの政治思想
世紀転回期のドイツ対外政策について
ヘンリー・アダムズの歴史理論
ロマン・ロランの理想主義と第一次大戦
人文地理学専攻
ストラボに於けるグレコローマ的性格

恵谷 俊之
金田 俊昭
園家 栄昭
山口 迪子
河内 良弘
竺沙 雅章
岡島 穰
津村 俊勝
谷 泰
三宅 正樹
野田 宣雄
津田 実
高多 彬臣

高橋 正

高橋 正

高橋 正

高橋 正

高橋 正

高橋 正

高橋 正

高橋 正

高橋 正

高橋 正

高橋 正

〔修士課程〕

篤集落の地理的意義

押野 昭生

明治以降における日本漁業発展の

島田 正彦

濃尾織物業地域における経済地理的考察

藤森 勉

考古学専攻

飛鳥時代の唐草文様

秋山 進午

ミヌシヌク地方の初期鉄器時代文化

田中 琢

日本学術会議選挙有権者の登録について

本年十二月十日に第四期日本学術会議員の選挙が行われます。科学者の代表機関としての学術会議のもつ重要な意味、殊に最近の学術会議が当面している問題の重要性は周知の通りです。しかるに従来より、有資格者でありながら、登録洩れのため投票されない研究者が非常に多い状況ですので、科学者の総意を学術会議に結集する為に登録洩れのないよう注意して下さい。

学術会議の選挙権を行使し、又は選挙されるためには、登録用カードを提出し学術会議中央選挙管理会の承認を受けなければなりません。

せんが、その期間は五月一日より七月二十日までとなっております。前回（昭和二十八年）の有権者には、当時の勤務先を通じて、又は直接に登録用カードが送付されます。今回新しく登録を求めようとされる方で、大学・研究機関に勤務する者はなるべくその所属機関を通じて、それ以外の者は左の様式により葉書で直接学術会議中央選挙管理会（東京都台東区上野公園内）へ登録用カードを請求しなければなりません。尚、当会宛に①氏名（ふりがな付）②現住所③職名を御勤務先・記入の上六月末日迄に御申込み下されば、一括して選挙管理会に

登録用カード用紙請求書

氏名(必ずふりがなを
つづけること)

現住所

勤務先 職名

(註)葉書を縦にして横書きの
管理会に

提出し、登録用カード・説明書を受取つてお送りします。

会 告

四月より史学研究会委員に異動が有りました。新委員を含めて委員は次の通りです。

- 朝尾直弘（国史）
- 狩野直禎（東洋史）

越智武臣（西洋史） 末尾至行（地理）
西谷真治（考古学） 石田善人

編 集 後 記

最初に、また／＼発行がおくれたことを、深くお詫びする。しかし巻頭の村田氏の論文より、書評欄にいたるまで、その内容の充実、これを補つてあまりあるものと信する。

さて本会は京都大学史学科を中心にするとはいえ、その規模・内容において、全国的な学会であることは言を俟たないであろう。幸に本年は、文学部創立五十周年にあつている。この記念すべき年を一つの足場として、本会がいよ／＼飛躍し発展するように、皆様の一層の御支援をお願いする。（狩野）

一九五六年 四月二五日印刷
一九五六年 五月一日発行
定価 百円
史 林 (第三九巻 第三号)

発行所 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内
理事 長 振替京都五一五五番
編輯主任 原 随園
赤松 俊秀
印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区七条御所ノ内 東町三九